

○提案内容

(1) 実現したい都市のビジョン

豊島区では「豊島区都市づくりビジョン(都市マスタープラン)」において、都市づくりの目標を「安全・安心で快適に暮らせる都市の実現」、「四季の彩りに包まれた環境に優しい都市空間の形成」、「文化の彩りと回遊性の広がりが生み出すにぎわいと活力の創出」とし、特に中心地である池袋駅周辺については、「多彩な魅力があふれる池袋副都心」と地域像を掲げている。この地域像の実現にあたっては、都市づくりビジョンに基づき策定した池袋駅周辺地区基盤整備方針や池袋副都心交通戦略において以下の具体的な施策を実施することとしている。

- ・東口駅前広場と西口広場とを接続する歩行者動線(空間)整備(北デッキ)
- ・メトロポリタンプラザから明治通りまで接続する歩行者動線(空間)整備(南デッキ)
- ・駅前広場と周辺施設で一体的な象徴的な都市空間を形成し、シンボリックな都市景観を演出
- ・路線バス、タクシー、LRT等の交通機能の集約配置
- ・明治通りの車線減少、南北ロータリー化による歩行者空間の拡大整備
- ・グリーン大通り(駅前～東口五差路交差点)の広場化
- ・新たな交通システム(LRT等)の導入 等

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開幕に向けても、まちづくりが大きく動いている。2019年秋には旧庁舎跡地にHareza池袋新ホール・新区民センターが完成する他、新たなまちづくりの核となる「4つの公園」のうち中池袋公園の改修が完了する。また、それらを回遊する電気バスの運行も開始する。さらに、2020年には旧庁舎跡地にHareza池袋がグランドオープンを迎えるほか、(仮称)造幣局跡地公園が完成することで、4つの公園の全てが完成し、池袋駅周辺のまちづくりがさらに大きく動き始める。

このように、池袋駅周辺では短期的・中長期的に急激にまちづくりが進捗する。池袋駅周辺においては、ICT等の新技術を用い、いままで取得することのできなかったデータや、まちづくりの動向によって逐一変化するデータを効率的に取得し、迅速な課題解決、政策判断を行うことや、即時的にPDCAサイクルを回すことによって、まちづくりをさらに加速させる都市を目指す。

(2) 新技術の導入により解決したい都市の課題

※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>池袋駅では従来から、乗換目的による通過利用が多いことが課題となっていた。駅周辺地域の魅力向上により池袋駅の乗換等利用者を駅周辺地域に回遊していただき、駅周辺地域全体の価値向上、活性化を図ることが求められている。</p> <p>また駅周辺地域では、サンシャインシティ等の大規模集客拠点や、アニメイト等のサブカルチャーの拠点などの重要な地域資源が存在する一方、これらの地域資源に来街者が集中することで特定の経路で混雑が生じていた。Hareza池袋などの新たな拠点が整備されることで新たな混雑も予見される。面的な回遊空間の創出により、混雑を解消し歩行者の回遊性を促進させる(①都市交通機能の向上)とともに、エリア内の飲食や小売、エンターテインメント施設などの商業的なポテンシャルを底上げすることで、エリア全体での賑わいと街の魅力を向上することが期待される。(②池袋エリア全体の価値向上)</p> <p>【地域の課題】 池袋駅の利用者数は一日当たり267万人と世界第2位の数を誇るが、その多くは乗換や駅に直接接続する百貨店での買い物目的であり、駅内部に留まる。</p> <p>また、来街者は特定の施設や経路に集中し、街全体の回遊が生まれにくい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅利用者の3/4は乗換えのみである(街なかに人がしみ出さない) ・池袋東口エリアでは17.1万人/日がメイン通りのサンシャイン60通りに集中(もう一つのメイン通りであるサンシャイン通りは4.7万人/日と少ない) <p>そこで、ICTを用いて以下の課題解決を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「アート・カルチャー都市としま」としての街路空間演出 (2) 混雑の緩和と、都市交通流の最適化、回遊行動の促進のための適切な歩行者誘導 (3) 歩行者に関する施策の有効性を検証する指標の整理と、地域の価値向上等のアウトカムも見据えた評価指標の取得 (4) 来街者の分布・交通量の見える化 <ul style="list-style-type: none"> ・池袋の歩行者を中心とした来街者の実態を正確かつ定量的に把握し、交通施策のエビデンスとする。 ・リアルタイムな歩行者交通量の計測によって歩行者の分布の変動を把握する (5) 歩行者回遊データの一元化と複数種類のセンサによる人流計測の統合処理 	<p>(ア) (ウ) (オ)</p>

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

【通信ネットワーク技術とセンシング技術】

- ・来街者のエリア内分布を測定する技術(映像解析, Wi-Fiセンシング)
- ・歩行者交通量の調査を24時間x365日継続的に行える技術(映像解析)
- ・来街者の属性(年齢・性別)を画像から判別し統計的に収集する技術(映像解析)
- ・プローブパーソン調査のためのスマートフォンアプリ

【分析・予測技術】

- ・現在の人流データから少し未来の人流や混雑状況を予測する技術

【データプラットフォーム】

- ・リアルタイムでセンシングした来街者に関するデータを一元管理するためのデータ利活用基盤

【データの活用(可視化技術等)】

- ・来街者のエリア内分布/混雑状況を可視化する技術
- ・一目で街の状況を把握(Situation Awareness)するための、計測内容を地図上に統合して表現する技術
- ・来街者の人流/混雑度解析結果をプライバシーに配慮した形で表示する画像匿名加工表示技術
- ・歩行者誘導のためのスマート街路灯(多用途LED街路灯)
- ・歩行者誘導のためのインタラクティブアート/プロジェクションマッピング技術
- ・歩行者/自動車交通量のリアルタイム情報に基づく交通信号機制御(将来)
- ・地域の価値(来街者数、消費額、地価等)を区民等にわかりやすく説明するための可視化技術

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

ICTを活用して都市のさまざまな流動データを集約し、刻々と変化する都市の流動をゆるやかに制御、スマートプランニング/EBPMの考えに基づく都市設計と合わせて、目指すべき都市ビジョンの実現を図る。

■都心回遊性の向上

- 池袋駅を中心にスローモビリティを中核とした交通流全体の最適化を進める
- ・AIによる自動運転低速シャトルバスのダイヤ・ルートの最適化
- ・歩行者・自動車交通量のリアルタイムな変化に応じた交通信号等道路施設の最適化
- ・歩行者、公共交通、物流、駐車場の一元管理による都市インフラの利用効率向上

■街路空間の演出

- 「アートカルチャー都市としま」としての劇場空間の創出
- ・インタラクティブアート(都市のメディア化)による歩行者の自由意思に基づいた回遊促進
- ・アフターシアターの演出による劇場施設の有効活用とナイトタイムエコノミーの活性化
- ・ICT技術を多用した“シテイドレッシング”による祝祭感の演出(民間媒体の積極的活用)

※「誘導」の考え方

- ・交通規制<街中サイン<インタラクティブアートの順で、自由意思による回遊が促進されやすくなると想定
- ・都市防災では適切な誘導が必須であり、本取組は防災時に活用可能
- ・ナイトタイムエコノミー/アフターシアターを狙った光の空間演出
- ・既存ビジョン広告等との連携により、公共性と収益性の両立を図る

(5) その他

本ニーズの社会実装に向けて、豊島区では、国土交通省による平成30年都市におけるスマートシティ実証調査の実施プロジェクトとして試行的取組を行ってきた。社会実装にあたってはデータプラットフォーム等を運営する能力を有するエリアマネジメント組織等の公共的な組織の設立が必要と考えるが、今年度の取組を契機として、継続的な実施主体の獲得に向けた地域関係者との意見交換を今後進めることを予定している。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
都市整備部 都市計画課	茂木 高嶺	03-4566-2635	takane-01- moteki@city.toshima.lg.jp